

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

年金制度と引退プロセス・受益者の生活水準
の相互関係に関する研究

平成 20 年度 総括研究報告書
(第 1 分冊)

研究代表者 北村 行伸

平成 21 (2009) 年 3 月

(別添1)

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

年金制度と引退プロセス・受益者の生活水準
の相互関係に関する研究

平成20年度 総括研究報告書
(第1分冊)

研究代表者 北村 行伸

平成21(2009)年3月

(別添2)

総括研究報告書 目次

目 次

I. 総括研究報告	
沖繩県における「くらしと健康の調査」の概要	i
北村 行伸・高山 憲之・小塩 隆士・清水谷論	
(資料) 分析結果クロス表	
II. 分担研究報告	
1. Social Security Reforms and Labor Force Participation of the Elderly in Japan	
小塩 隆士・清水谷論	iii
2. Does Social Security Induce Withdrawal of the Old from the Labor Force and Create Jobs for the Young?: The Case of Japan	
小塩 隆士・清水谷論	v
3. The Labor Supply Effect of Social Security Earnings Test revisited: Empirical Evidence from its Elimination and Revival in Japan	
小塩 隆士・清水谷論	vii
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	ix
IV. 沖繩県における「くらしと健康の調査」分析クロス表	1
V. 研究成果	
1. Social Security Reforms and Labor Force Participation of the Elderly in Japan	
小塩 隆士・清水谷論	425
2. Does Social Security Induce Withdrawal of the Old from the Labor Force and Create Jobs for the Young?: The Case of Japan	
小塩 隆士・清水谷論	459
3. The Labor Supply Effect of Social Security Earnings Test revisited: Empirical Evidence from its Elimination and Revival in Japan	
小塩 隆士・清水谷論	490

注：本報告書は製本上の制約により以下の3分冊になっている。

I, II, IIIのすべて、およびIVの一部(1~208頁)	第1分冊
IVの残り(209~424頁)	第2分冊
Vのすべて(425~530頁)	第3分冊

(別添3)

厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))

「年金制度と引退プロセス・受益者の生活水準の相互関係に関する研究」

総括研究報告書

“沖縄県における「くらしと健康の調査」の概要”

分担研究者 北村 行伸 一橋大学経済研究所教授

分担研究者 高山 憲之 一橋大学経済研究所教授

分担研究者 小塩 隆士 神戸大学大学院経済学研究科教授

分担研究者 清水谷 論 世界平和研究所主任研究員

研究要旨

本研究では、アメリカ・ヨーロッパの先行例と国際的に比較可能な形で調査内容・方法を設計した上、沖縄県で中高年に関する健康や引退に関する調査を行った。中でも引退に関して、従来議論されてきたような年金制度の影響はもちろん、これまでデータの欠如から十分に研究されてこなかった健康状態や家族関係、社会参加活動への参加意欲といった生活の多くの側面を定量化することで、その原因を探り、受益者の生活水準へ影響を解析した。具体的には、引退の意思決定にとって年金制度とともに、健康状態が引退行動に大きな影響を与えること、そのため、引退後の WELLBEING を考える際には、現金給付(年金制度)だけでなく、現物給付(医療・介護サービス)との効率的な組み合わせが必要であること、さらに、年金や健康といった要因だけでは引退のプロセスをすべてはとらえきれないことが明らかになった。また、中高年におかれた状況は健康状態、経済状態、就業状態、家族関係、社会とのつながりといった面で実に多様であった、しかもそれらの要因が密接に結びついていることから、それぞれをターゲットした政策の重要性が明らかになった。

A. 研究目的

本研究の目的は、中高年を対象に、国際的に比較可能なデータを作成することにより、世界的に見ても寿命の長い沖縄県の中高年の引退プロセスを、健康状態、経済状態(年金制度も含む)、家族関係、社会参加活動といっ

た生活の多様な側面から解析を行い、受益者の生活水準への影響を明らかにし、社会保障政策へのインプリケーションを得る。

B. 研究方法

アメリカの HRS、イギリスの ELSA、大陸ヨ

ヨーロッパの SHARE といった「世界標準」の中
高年調査と比較可能なデータセットを作成す
ることにより、年金制度が引退プロセスに与
える影響を明らかにする。さらに年金制度以
外の要因、特に健康状態、家族関係、社会参
加活動への意欲といった他の要因についても
把握することによって、引退プロセスを総合
的に明らかにする。

(倫理面への配慮)

倫理面への配慮を要するデータは、本研究
に際しては用いていない。

C. 研究結果

以下の点が確認された。第1に、年金給付
水準が引退プロセスに与える影響は大きい。
第2に、年金給付水準以外の要因、特に健康
状態が引退プロセスに与える影響が非常に大
きい。第3に、年金給付水準や健康状態だけ
では引退のプロセスをすべてはとらえきれな
い。第4に、健康状態、経済状態、家族関係
といった一見無関係に見える要因は非常に密
接に関連している。

D. 考察

年金給付水準が引退プロセスに与える影響
は、他の分担報告書でも明らかにされている
が、同時に健康状態が与える影響を無視でき
ない。そのためには、年金給付水準を設定す
る際に、医療・介護といった現物給付との効

率的なバランスを考える必要がある。また経
済状況と健康状態は（因果関係の検証は今後
の研究を待たれるが）密接に関連している。

E. 結論

引退プロセスには、年金給付はもちろん、
健康状態が無視できない影響をもたらし、中
高年の置かれた状況は実に多様である。本研
究の結果は、社会保障政策の立案に当たって
は、両者を同時に考慮することで、受益者の
生活水準を改善することができることを明ら
かに示している。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

H. 知的所有権の取得状況の出願・登録状況

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし

(別添 4)

厚生労働科学研究費補助金 (政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))

「年金制度と引退プロセス・受益者の生活水準の相互関係に関する研究」

分担研究報告書 (1.)

“Social Security Reforms and Labor Force Participation of the Elderly in Japan”

分担研究者 小塩 隆士 神戸大学大学院経済学研究科教授

分担研究者 清水谷 諭 世界平和研究所主任研究員

(研究協力者 大石亜希子 千葉大学法文学部准教授)

研究要旨

本研究では、日本において過去 40 年間、公的年金制度が高齢者就業にどのような影響を及ぼしてきたかを分析した。具体的には、動学的な枠組みを用いて公的年金の就業への誘因を把握するいくつかの指標 (誘因指標 incentive measures) を作成し、それを用いて年金制度改革に伴う給付条件の変更が高齢者の雇用労働力率に及ぼす影響を試算した。本研究の分析によれば、高齢者就業は公的年金の給付条件の変化に少なからず影響を受け、特に 1980 年以降の年金制度改革は高齢者就業を有意な形で促進している。

A. 研究目的

本研究の目的は、公的年金制度が高齢者就業にどのような影響を及ぼしてきたかを定量的に分析することである。

(倫理面への配慮)

倫理面への配慮を要するデータは、本研究に際しては用いていない。

B. 研究方法

戦後の年金制度改革の沿革を簡単に概観した上で、年金制度改革の高齢層の就業に及ぼす影響を社会保障資産およびその他の関連指標を説明変数とする回帰式で分析する。また、その結果得られたパラメータを用いて、年金制度改革の効果を試算する。

C. 研究結果

第 1 に、社会保障資産は 1980 年代半ばにピークアウトし、1985 年改革以降における給付条件の厳格化と整合的な動きを示している。第 2 に、いくつかの変数を制御して、各種誘因指標が雇用労働力率をどの程度説明するか回帰式を計算すると、理論にほぼ整合的な結果が得られた。第 3 に、1985 年以降、年金制度改革がまったく実

施されていなければ、単年度ベースで見て、男子で 1.3~3.3%、女子で 0.6~2.3%程度、雇用労働力率が低くなっていたと試算される。

D. 考察

本研究の分析は集計データに基づくものであり、個人の属性を完全には制御していないという制約があるが、社会保障資産など社会保障の関連変数の内生性をできるだけ丁寧に処理し、動学的な枠組みに基づいたものである。したがって、本研究で得られた結果は、公的年金の高齢者就業に及ぼす効果を明確に示すものと言える。

E. 結論

高齢者就業は公的年金の給付条件の変化に少なからず影響を受けており、特に 1980 年以降の年金制度改革は高齢者就業を有意な形で促進してきた。この結果は、今後の年金制度改革の在り方についても重要な政策的含意をもっている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

一橋大学経済研究所世代間問題研究機構ディスカッションペーパー No.407, 2008 年 10 月) (Japanese Economic Review 誌に投稿し、査読結果を踏まえて現在修正中)。

2. 学会発表

なし

H. 知的所有権の取得状況の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））

「年金制度と引退プロセス・受益者の生活水準の相互関係に関する研究」

分担研究報告書（2.）

“Does Social Security Induce Withdrawal of the Old from the Labor Force and Create Jobs for the Young?: The Case of Japan”

分担研究者 小塩 隆士 神戸大学大学院経済学研究科教授

分担研究者 清水谷 論 世界平和研究所主任研究員

（研究協力者 大石亜希子 千葉大学法文学部准教授）

研究要旨

本研究は、公的年金が高齢層及び若年層の就業にどのような影響を及ぼしてきたかを、とりわけ若年就業に対する年金制度改革の内生性を明示的に考慮して定量的に分析する。諸外国では若年就業の促進が年金改革の重要な狙いとされてきた面もあり、年金改革が高齢層のみならず若年層の就業に及ぼす影響が注目されている。本研究では、そうした諸外国との比較を念頭に置いて、日本の公的年金の就業への影響を検討している。

A. 研究目的

本研究の目的は、公的年金が高齢層及び若年層の就業にどのような影響を及ぼしてきたかを、とりわけ若年就業に対する年金制度改革の内生性を明示的に考慮して定量的に分析することである。

およびその他の関連指標を説明変数とする回帰式で分析する。

（倫理面への配慮）

倫理面への配慮を要するデータは、本研究に際しては用いていない。

B. 研究方法

戦後日本における年金改革の沿革を簡単に概観した上で、高齢層・若年層の就業・失業の長期的傾向を整理する。次に、両者間の統計的な関係を回帰分析で大まかに捉えるとともに、年金制度改革の高齢層・若年層の就業に及ぼす影響を社会保障資産

C. 研究結果

高齢層の就業が若年層の就業を阻害する傾向は統計的に確認できない。また、社会保障給付の充実は、高齢層の就業を抑制するものの、その一方で若年層の就業を促進するわけではないことも示された。

D. 考察

日本では、高齢就業と若年就業との間に明確な関係は認められず、公的年金の就業に及ぼす影響の方向も高齢層・若年層で同じである。ただし、回帰式の結果には不安定な面もあり、公的年金の就業に影響する経路については、定式化を精緻にして分析を改良する余地がある。

E. 結論

日本では、諸外国の場合と異なり、年金制度改革が若年層の雇用政策と関連づけて進められたことはなく、高齢層の労働力率の上昇も若年層の就業を阻害していない。一方、公的年金は高齢層・若年層の双方の就業抑制要因として機能しているが、若年層の失業とは統計的に無関係である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

一橋大学経済研究所世代間問題研究機構ディスカッションペーパー No.408, 2008年10月（最終的には、全米経済研究所（NBER）が主催する国際研究プロジェクトの単行本に所収される予定）。

2. 学会発表

全米経済研究所が平成20年5月に主催した国際会議（於リスボン）で報告。

H. 知的所有権の取得状況の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)）

「年金制度と引退プロセス・受益者の生活水準の相互関係に関する研究」

分担研究報告書(3.)

“The Labor Supply Effect of Social Security Earnings Test revisited:
Empirical Evidence from its Elimination and Revival in Japan”

分担研究者 小塩 隆士 神戸大学大学院経済学研究科教授

分担研究者 清水谷 論 世界平和研究所主任研究員

研究要旨

本研究は、各年の「高齢者就業実態調査」の個票を用いて、65歳以上の高齢者就業に対する在職老齢年金の所得制限に関する制度変更（1985年に制限撤廃、2002年に復活）の影響を分析したものである。本研究の分析によれば、雇用者・企業の属性をコントロールすると、在職老齢年金の所得制限の変更は賃金分布にほとんど影響しない。しかし、2004年における同「調査」の回答者は、2002年の制度変更が就業に大きな影響を与えたと回答しており、測定誤差や労働市場の硬直性によって、伝統的な *bunch analysis* では労働供給への影響が十分捉えられないという限界が示唆された。

A. 研究目的

本研究の目的は、各年の「高齢者就業実態調査」の個票を用いて、65歳以上の高齢者就業に対する在職老齢年金の所得制限に関する制度変更（1985年に制限撤廃、2002年に復活）の影響を分析することである。

注目し、両者を比較する。前者については、賃金分布の変化を労働者・企業の属性の変化に起因する部分と、属性の効果の変化に起因する部分に分解し、属性を制御した場合の賃金分布を試算する（いわゆる DFL 分解）。

B. 研究方法

1985年に撤廃され、2002年に復活した65歳以上の所得制限が一種の自然実験であることに注目し、制度変更前後の賃金分布の変化を分析（*bunch analysis*）すると同時に、調査における直接的な回答にも

（倫理面への配慮）

倫理面への配慮を要するデータは、本研究に際しては用いていない。

C. 研究結果

第1に 1985年の制度改革（所得制限の

撤廃)については、賃金分布の1983年から1988年にかけての変化のほとんどは労働者・企業属性に起因し、改革の効果ではないと推察される。

第2に2000年の制度改革(所得制限の復活)については、改革後、分布は閾値を含んでむしろフラット化し、新たなbunchは形成されず、労働者・企業属性を制御した賃金分布でも新たなbunchは形成されない。いずれも、改革の効果が限定的であることを示唆するものと言える。

D. 考察

前項に述べた分析結果は、2004年調査における回答結果(2002年に復活した所得制限に対して、29.5%が仕事を辞め、16.9%が労働日数・時間を抑制と回答。しかも、そう回答した高齢者ほど賃金が低下)と必ずしも整合的ではない。測定誤差や労働市場の硬直性の存在を考慮しないと、通常のbunch analysisでは所得制限の効果が過小評価される危険性があることが分かる。

E. 結論

雇用者・企業の属性をコントロールすると、在職高齢年金の所得制限の変更は賃金分布にほとんど影響しないが、2004年「高齢者就業実態調査」の回答者は2002年の制度変更が就業に大きな影響を与えたと回答しており、測定誤差や労働市場の硬直性

によって伝統的なbunch analysisでは労働供給への影響が十分捉えられないという限界が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

一橋大学経済研究所世代間問題研究機構ディスカッションペーパー No.410, 2008年11月。

2. 学会発表

なし

H. 知的所有権の取得状況の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌(ディスカッションペーパー)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小塩隆士 清水谷論 大石亜希子	Social security reforms and labor force participation of the elderly in Japan	一橋大学経済研究所世代間問題研究機構 ディスカッションペーパー	No.407	1~34	2008年
小塩隆士 清水谷論 大石亜希子	Does social security induce withdrawal of the old from the labor force and create jobs for the young?: The case of Japan	一橋大学経済研究所世代間問題研究機構 ディスカッションペーパー	No.408	1~31	2008年
小塩隆士 清水谷論	The labor supply effect of social security earnings test revisited: Empirical evidence from its elimination and revival in Japan	一橋大学経済研究所世代間問題研究機構 ディスカッションペーパー	No.410	1~41	2008年

「くらしと健康の調査」面接調査

A-1000.0_性別

	合計	1. 男性	2. 女性
全体	430 (100.0)	177 (41.2)	253 (58.8)
男性計	176 (100.0)	176 (100.0)	0 (-)
1. 男性50歳代	63 (100.0)	63 (100.0)	0 (-)
2. 男性60歳代	31 (100.0)	31 (100.0)	0 (-)
3. 男性70歳代	0 (-)	0 (-)	0 (-)
4. 男性不明	0 (-)	0 (-)	0 (-)
女性計	251 (100.0)	0 (-)	251 (100.0)
1. 女性50歳代	127 (100.0)	0 (-)	127 (100.0)
2. 女性60歳代	78 (100.0)	0 (-)	78 (100.0)
3. 女性70歳代	46 (100.0)	0 (-)	46 (100.0)
4. 女性不明	0 (-)	0 (-)	0 (-)

注：()内は100とした割合

A-1000.0_年齢【回答の有無】

	合計	1. 回答あり	2. わからない	3. 回答拒否
全体	430 (100.0)	403 (93.8)	1 (0.2)	26 (6.0)
男性計	176 (100.0)	176 (100.0)	0 (-)	0 (-)
1. 男性50歳代	82 (100.0)	82 (100.0)	0 (-)	0 (-)
2. 男性60歳代	63 (100.0)	63 (100.0)	0 (-)	0 (-)
3. 男性70歳代	30 (100.0)	30 (100.0)	0 (-)	0 (-)
4. 男性不明	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
女性計	251 (100.0)	227 (90.4)	1 (0.4)	23 (9.2)
1. 女性50歳代	127 (100.0)	127 (100.0)	0 (-)	0 (-)
2. 女性60歳代	78 (100.0)	78 (100.0)	0 (-)	0 (-)
3. 女性70歳代	46 (100.0)	46 (100.0)	0 (-)	0 (-)
4. 女性不明	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

注：()内は100とした割合

1-003. 全、配偶者または内縁関係のおはられますか。

	合計	1. いる	2. いない	3. わからぬ	4. 回答拒否
全体	428 (100.0)	300 (70.1)	128 (29.9)	0 (-)	0 (-)
男性計	(100.0)	(78.4)	(20.6)	(-)	(-)
1. 男性50歳代	(100.0)	(73.2)	(26.8)	(-)	(-)
2. 男性60歳代	(100.0)	(83.9)	(16.1)	(-)	(-)
3. 男性70歳代	(100.0)	(87.0)	(13.0)	(-)	(-)
4. 男性不明	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
女性計	251 (100.0)	159 (63.2)	92 (36.7)	0 (-)	0 (-)
1. 女性50歳代	177 (100.0)	78 (43.5)	99 (56.5)	0 (-)	0 (-)
2. 女性60歳代	78 (100.0)	52 (66.7)	26 (33.3)	0 (-)	0 (-)
3. 女性70歳代	44 (100.0)	39 (88.6)	5 (11.4)	0 (-)	0 (-)
4. 女性不明	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

注()内は77%を100とした割合

1-004. いつ結婚されましたか。あまいは、内縁関係のおと同居しはじめたのはいつですか。【回答の有無】

	合計	1. 回答あり	2. わからぬ	3. 回答拒否
全体	300 (100.0)	270 (90.0)	30 (9.7)	0 (0.3)
男性計	139 (100.0)	122 (87.8)	17 (12.2)	0 (-)
1. 男性50歳代	60 (100.0)	55 (91.7)	5 (8.3)	0 (-)
2. 男性60歳代	52 (100.0)	46 (88.5)	6 (11.5)	0 (-)
3. 男性70歳代	27 (100.0)	23 (85.2)	4 (14.8)	0 (-)
4. 男性不明	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
女性計	159 (100.0)	147 (92.5)	11 (6.9)	1 (0.6)
1. 女性50歳代	78 (100.0)	70 (89.7)	8 (10.3)	0 (-)
2. 女性60歳代	52 (100.0)	49 (94.2)	3 (5.8)	0 (-)
3. 女性70歳代	29 (100.0)	23 (79.3)	6 (20.7)	0 (-)
4. 女性不明	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

注()内は77%を100とした割合

A-004. 1つは増えましたが、あるいは、内臓関係の方と同量もしくは始めたのはいつですか。

	1. 昭和29年 以前	2. 昭和30～ 39年	3. 昭和40～ 49年	4. 昭和50～ 59年	5. 昭和60～ 69年	6. 平成7年 以降
全体	269 (100.0)	6 (2.2)	48 (17.8)	96 (35.7)	83 (30.9)	11 (4.1)
男性計	122 (100.0)	2 (1.6)	23 (18.9)	40 (32.8)	37 (30.3)	3 (2.3)
1. 男性50歳代	50 (100.0)	3 (6.0)	14 (12.7)	26 (52.7)	13 (23.6)	5 (5.5)
2. 男性60歳代	44 (100.0)	1 (2.3)	8 (18.2)	26 (59.1)	6 (6.8)	3 (6.8)
3. 男性70歳代	23 (100.0)	0 (0.0)	14 (60.9)	7 (30.4)	2 (8.7)	0 (0.0)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性計	146 (100.0)	3 (2.1)	25 (17.1)	56 (38.4)	45 (30.8)	8 (5.3)
1. 女性50歳代	69 (100.0)	0 (0.0)	10 (24.3)	19 (55.4)	11 (10.3)	7 (9.2)
2. 女性60歳代	49 (100.0)	2 (4.1)	10 (20.4)	33 (66.3)	4 (8.2)	2 (4.0)
3. 女性70歳代	23 (100.0)	0 (0.0)	15 (65.2)	6 (26.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は100%を100とした割合

A-005. 配偶者の方は、何年何月生まれましたか。【回答の有無】

	1. 回答あり	2. わからな い	3. 回答拒否
全体	300 (100.0)	293 (97.7)	7 (2.3)
男性計	139 (100.0)	136 (97.8)	3 (2.2)
1. 男性50歳代	60 (100.0)	60 (100.0)	0 (0.0)
2. 男性60歳代	100 (100.0)	98 (98.1)	2 (2.0)
3. 男性70歳代	77 (100.0)	75 (97.4)	2 (2.6)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性計	159 (100.0)	145 (91.2)	14 (8.8)
1. 女性50歳代	76 (100.0)	75 (98.7)	1 (1.3)
2. 女性60歳代	100 (100.0)	96 (96.0)	4 (4.0)
3. 女性70歳代	79 (100.0)	77 (97.5)	2 (2.5)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は100%を100とした割合

A-505. 配達員の方は、何年何月までですか。

	1. 合計	2. 55～59歳	3. 60～64歳	4. 65～69歳	5. 70～74歳	6. 75～79歳	7. 80歳以上
全体	320 (100.0)	152 (47.5)	103 (32.2)	61 (19.2)	37 (11.6)	11 (3.4)	3 (0.9)
男性	135 (42.2)	64 (47.4)	41 (30.4)	27 (20.0)	12 (8.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性	185 (57.8)	88 (47.6)	62 (33.5)	34 (18.4)	25 (13.4)	11 (5.7)	3 (1.6)
1. 男性50歳代	60 (100.0)	21 (35.0)	14 (23.3)	5 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 男性60歳代	51 (100.0)	9 (17.6)	5 (9.8)	16 (31.4)	10 (20.0)	3 (5.9)	0 (0.0)
3. 男性70歳代	25 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (16.0)	16 (64.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性	185 (100.0)	24 (12.9)	23 (12.4)	20 (10.8)	34 (18.4)	24 (12.9)	11 (5.9)
1. 女性50歳代	78 (100.0)	11 (14.1)	23 (29.5)	18 (23.1)	10 (12.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 女性60歳代	100 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.0)	22 (22.0)	15 (15.0)	1 (1.0)
3. 女性70歳代	27 (100.0)	3 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (14.8)	20 (74.2)	0 (0.0)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は100とした割合

A-506. 配達員の方が通っていた学校を教えてください。その学校は卒業しましたか。

	1. 小学校 卒業	2. 小学校 中退	3. 小学校 在学中	4. 高等小学校 (旧制) 卒業	5. 高等小学校 (旧制) 中退	6. 高等小学校 (旧制) 在学中	7. 高等小学校 (旧制) を含む 中学校	8. 高等小学校 (旧制) を含む 高等学校	9. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	10. 高等小学校 (旧制) を含む 大学	11. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	12. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	13. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	14. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	15. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	16. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	17. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	18. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	19. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	20. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	21. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	22. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	23. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校	24. 高等小学校 (旧制) を含む 専門学校
全体	300 (100.0)	69 (23.0)	7 (2.3)	0 (0.0)	113 (37.7)	17 (5.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
男性	139 (100.0)	35 (25.2)	3 (2.2)	0 (0.0)	50 (35.9)	12 (8.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性	161 (100.0)	34 (21.1)	4 (2.5)	0 (0.0)	63 (39.1)	5 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1. 男性50歳代	60 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (51.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 男性60歳代	85 (100.0)	17 (20.0)	2 (2.4)	0 (0.0)	37 (43.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. 男性70歳代	27 (100.0)	12 (44.4)	3 (11.1)	0 (0.0)	20 (74.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性	159 (100.0)	34 (21.4)	4 (2.5)	0 (0.0)	63 (39.6)	5 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1. 女性50歳代	78 (100.0)	14 (18.1)	1 (1.3)	0 (0.0)	31 (39.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 女性60歳代	82 (100.0)	17 (20.7)	2 (2.4)	0 (0.0)	34 (41.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. 女性70歳代	29 (100.0)	10 (34.5)	2 (6.9)	0 (0.0)	17 (58.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は100とした割合

「くらしと健康の調査」面接調査

A-307. 最もよく当てるはまるもの。女性。これまでに複数の配偶者がいらしたことがある場合は、一番最後につれそわれた方についてお答えください

	合計		これまで配偶者に 結婚した ことはい		これから 結婚したい ことはい		わからない		回答拒否	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
全体	128	(100.0)	33	(25.8)	38	(29.7)	55	(43.0)	1	(0.8)
男性	36	(100.0)	15	(41.7)	5	(13.9)	15	(41.7)	1	(2.8)
女性	92	(100.0)	18	(19.6)	33	(35.9)	40	(43.5)	0	(0.0)
1. 男性50歳代	10	(100.0)	3	(30.0)	2	(20.0)	5	(50.0)	0	(0.0)
2. 男性60歳代	4	(100.0)	0	(0.0)	3	(75.0)	0	(0.0)	1	(25.0)
3. 男性70歳代	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
4. 男性不明	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
女性	92	(100.0)	18	(19.6)	33	(35.9)	40	(43.5)	1	(1.1)
1. 女性50歳代	16	(100.0)	4	(25.0)	8	(50.0)	2	(12.5)	0	(0.0)
2. 女性60歳代	29	(100.0)	3	(10.3)	16	(55.2)	10	(34.5)	0	(0.0)
3. 女性70歳代	17	(100.0)	7	(41.2)	6	(35.3)	4	(23.5)	0	(0.0)
4. 女性不明	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)

注：()内は有効率を100とした割合

A-308. 配偶者の方はいつに亡くなりましたか【回答の旨】

	合計		回答あり		わからない		回答拒否	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
全体	38	(100.0)	37	(97.4)	0	(0.0)	1	(2.6)
男性	5	(100.0)	5	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
女性	33	(100.0)	32	(97.0)	0	(0.0)	1	(3.0)
1. 男性50歳代	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
2. 男性60歳代	2	(100.0)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
3. 男性70歳代	3	(100.0)	3	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
4. 男性不明	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
女性	33	(100.0)	32	(97.0)	0	(0.0)	1	(3.0)
1. 女性50歳代	4	(100.0)	3	(75.0)	0	(0.0)	1	(25.0)
2. 女性60歳代	13	(100.0)	13	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
3. 女性70歳代	13	(100.0)	13	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
4. 女性不明	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)

注：()内は有効率を100とした割合

A-108. 配偶者の方はいっしょに女房はたか

	合計	1. 昭和29年 以前	2. 昭和30年 ～ 39年	3. 昭和40年 ～ 49年	4. 昭和50年 ～ 59年	5. 昭和60年～ 平成7年 以前	6. 平成8年 以降
全体	37 (100.0)	1 (2.7)	4 (10.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (10.8)	28 (76.3)
男性計	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1. 男性50歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 男性60歳代	2 (5.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.4)
3. 男性70歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性計	37 (100.0)	1 (2.7)	4 (10.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (10.8)	28 (76.3)
1. 女性50歳代	3 (8.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.7)	2 (5.4)
2. 女性60歳代	16 (43.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (7.9)	8 (21.5)
3. 女性70歳代	13 (35.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (21.5)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は百分率を100とした割合

A-109. いっしょに健康の良けを出されたか【回答の重複】

	合計	回答あり はい	回答あり いい	回答あり わからない	回答拒否
全体	55 (100.0)	36 (65.5)	19 (34.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
男性計	15 (100.0)	11 (73.3)	4 (26.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
1. 男性50歳代	10 (100.0)	6 (60.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 男性60歳代	5 (100.0)	5 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. 男性70歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性計	40 (100.0)	25 (62.5)	15 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
1. 女性50歳代	20 (100.0)	12 (60.0)	8 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 女性60歳代	7 (100.0)	5 (71.4)	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. 女性70歳代	4 (100.0)	4 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は百分率を100とした割合

A-009. いっしょに暮らすの掛けを出されたか。

	1. 昭和29年 以前	2. 昭和30~ 39年	3. 昭和40~ 49年	4. 昭和50~ 59年	5. 昭和60~ 平成7年 まで	6. 平成8年 以降
全体	36 (100.0)	0 (0.0)	1 (2.8)	7 (19.4)	12 (33.3)	16 (44.4)
男性計	11 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	2 (18.2)	7 (63.6)
1. 男性50歳代	5 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	3 (33.3)	3 (50.0)
2. 男性60歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. 男性70歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性計	25 (100.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	5 (20.0)	10 (40.0)	9 (36.0)
1. 女性50歳代	18 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)	10 (55.6)	6 (33.3)
2. 女性60歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. 女性70歳代	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は75%未満を100とした割合

A-010. お子さんはいらっしゃるでしょうか。

	1. はい	2. いいえ	3. わからない	4. 回答拒否
全体	428 (100.0)	335 (78.3)	92 (21.5)	1 (0.2)
男性計	175 (100.0)	140 (80.0)	35 (20.0)	0 (0.0)
1. 男性50歳代	82 (100.0)	57 (69.5)	25 (30.5)	0 (0.0)
2. 男性60歳代	82 (100.0)	54 (65.9)	28 (34.1)	0 (0.0)
3. 男性70歳代	11 (100.0)	10 (90.9)	1 (9.1)	0 (0.0)
4. 男性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女性計	251 (100.0)	193 (76.9)	57 (22.7)	1 (0.4)
1. 女性50歳代	127 (100.0)	78 (61.4)	49 (38.6)	0 (0.0)
2. 女性60歳代	78 (100.0)	72 (92.3)	6 (7.7)	1 (1.3)
3. 女性70歳代	46 (100.0)	42 (91.3)	4 (8.7)	0 (0.0)
4. 女性不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

注：()内は75%未満を100とした割合